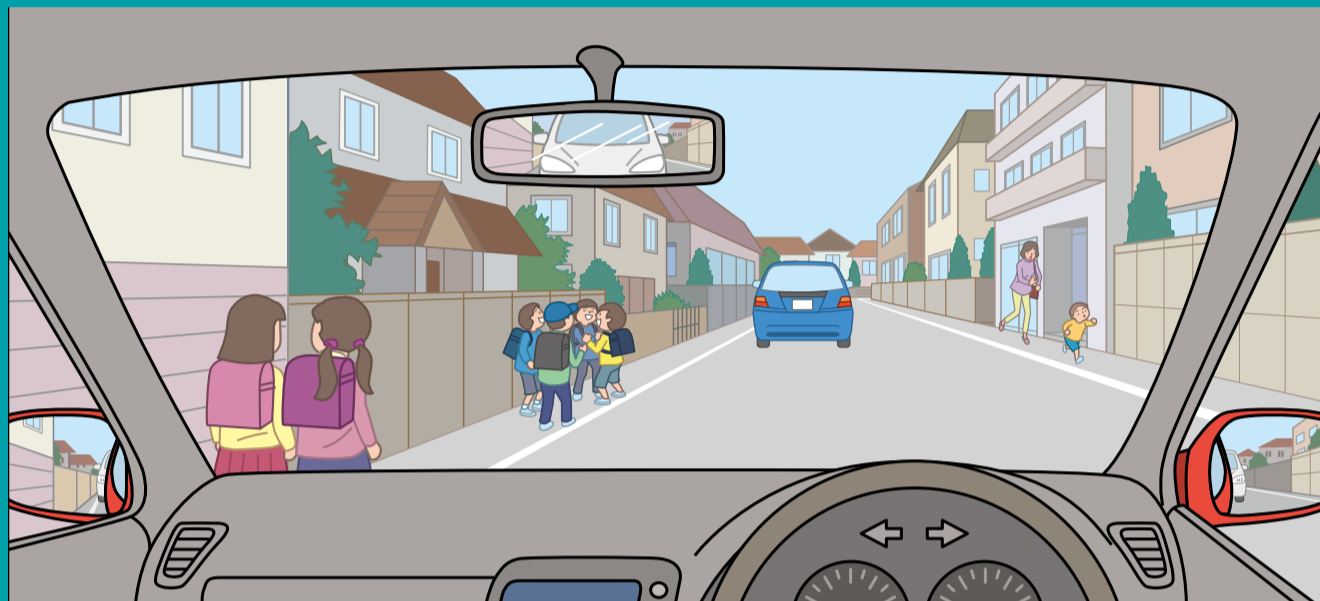


KYT 危険予測トレーニング

第85回 こどもが歩いている時（四輪車編）

あなたは小学校の下校時間帯に生活道路を走行しています。
左側には小学生、右側には親子連れがいます。
安全に走行するためには、
どのようなことを予測する必要がありますか？



交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は四輪車のドライバーに、こどもが歩いている近くを通る時の危険について考えてもらうためのKYTです。

活用方法

1. 少人数のグループをつくります。
2. 「交通場面のイラスト」を見ながら、意見を出し合います。
3. その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつければ良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト（カラー・A4版）」は下記SJホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード（無料）できます。

【使用上の注意】

ホンダ SJ 検索

- 営利目的での利用はおやめください。
 - 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
 - その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。
- 本田技研工業（株）安全運転普及本部
TEL：03(5412)1736 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業（株）

SJ クイズ ?

こども編

- Q1** 幼児（未就学児）の交通事故死者・重傷者数（2017～2021年の合計）を状態別にみると、最も多いのは次のうちどれでしょう？
①歩行中 ②自転車乗用中 ③自動車乗車中
- Q2** 歩行中の幼児（未就学児）が第1当事者または第2当事者※1となった交通事故死者・重傷者数（2017～2021年の合計）を法令違反別（違反なし含む）にみると、「幼児のひとり歩き」の割合は何%でしょう？
①約10% ②約20% ③約30%
※1 第1当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。第2当事者は過失がより軽いか、過失が同程度の場合は被害がより大きいほうの当事者。
- Q3** 歩行中の幼児（未就学児）の交通事故死者・重傷者数（2017～2021年の合計）を事故類型別にみると、最も多いのは次のうちどれでしょう？
①横断歩道横断中 ②横断歩道付近横断中 ③横断中その他※2
※2 横断歩道、横断歩道付近および横断歩道橋付近以外の道路の部分歩行者が横断していた時に事故が発生した類型。



「解答」はP7下、「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

Safety Japan Action 2023 春

～あなたから『おもうこと』『できること』～

Hondaでは、春の全国交通安全運動に合わせて「Safety Japan Action（セーフティジャパンアクション）2023春」を5月8日～31日、Hondaの二輪・四輪のお店や関連会社、各事業所を発信拠点とし、すべての交通参加者へ向けて展開してまいります。

混合交通下では様々な交通参加者が道路を利用しています。この春は“小学1年生を守るために”をテーマに、運転者だけでなく、保護者の方々がお子さまと一緒に体験できるスペシャルサイトを5月8日に開設します。プレゼントも用意していますのでぜひご参加ください。右のQRコードから多くの皆さまのアクセスをお待ちしています。

*一部の二輪販売店を除く。



できるニャン探偵が
スペシャルサイトの
ナビゲーター



二輪・四輪販売会社で
配布している
安全運転情報誌
「Think Safety」



スペシャルサイトへアクセス▶

SJ編集部だより

～交通事故死者ゼロをめざして～

1年前の春号で、こども向けの交通安全教育プログラムの効果検証の結果を紹介した。そこで確認できたことは、こどもたちへの継続した指導の必要性である。これは、小学校や幼稚園・保育園の先生方は重々承知していることかもしれない。しかし、時間的な問題等があり、ほとんどできていないのが現実ではないだろうか。先生方の負担にならないよう、この課題を解決したいと、Hondaは巻頭記事で紹介したプログラムを作成した。かるたや体操といったこどもが親しみやすいものをベースに、2分程度で完結できる内

容となっている。交通安全教室のように、まとまった時間を設ける必要はなく、先生一人ひとりが都合の良いタイミングで実施することができることのメリットは大きいだろう。実際に、学校生活の中にある隙間時間を見つけて、プログラムを利用した先生もいた。時間は短くても継続していくことが大切だといえる。そして、こどもたちに正しい交通行動を身につけてもらうためには、豊橋技術科学大学准教授の松尾さんがいう、大人が交通ルールを守る姿を見せ続けることの重要性も忘れてはならないことである。